

巻頭言「新しい時代の教師の学び」

宗谷複式教育研究連盟
委員長 小島 康秀

3年にわたる新型コロナウイルスの感染もようやく沈静化に向かい、学校生活も少しずつ落ち着きを取り戻しているように感じます。依然と全く同じという訳にはいきませんが、校内研修や各研究団体の活動などはオンラインなども活用し、新しい形での研究が進んでいるようにお聞きします。

さて、私たち複式校の教師にとって「わたり」や「ずらし」などの指導技術は、先輩教師が長きにわたりその技術を磨き、積み重ねてきた貴重な財産といえます。特に、北海道のへき地複式教育は、昭和27年に十勝地区で「第1回全国単級複式教育研究大会」が行われた際、「自ら学ぶ教育」の理念が確認され、その後の本道のへき地複式教育にも実践的に継承されるきっかけになりました。これは、現学習指導要領の「主体的・対話的」な学びにもつながるものであると考えます。

新型コロナウイルス感染症のためGIGAスクール構想が前倒しになり、児童生徒一人に一台ずつタブレット端末が配備されました。他地域とのオンライン授業も普通に行われるようになり、へき地校が抱えていた課題のいくつかは解消されたと思います。では、その分、子どもたちの学びがこれまでよりもさらに深まったと言えるのでしょうか。

令和3年1月に中央教育審議会が「『令和の日本型学校教育』の構築をめざして」を答申しました。そして、翌年12月には「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～」が発表されました。新しい時代の新しい学びに対して教職員に求められる専門性がますます大きくなってきたと感じます。

本年度、3年ぶりに宗谷管内教育研究大会が会同にて開催され、猿払村の知来別小学校、浜鬼志別小学校、浅茅野小学校の3校に宗谷複式教育研究大会として授業を公開していただきました。限られた人数ではありましたが、参観者からは多くの学びがあったという感想がたくさん寄せられました。校長先生を始め、教職員のみならずには貴重な研修の場を提供していただいたと感謝いたしております。

上記答申「新たな教師の学びの姿」では、「教師自身の研修観を転換し、個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた、『主体的・対話的で深い学び』」を求めています。私たち教師にこそ学び続けることが求められています。そのためにも本研究連盟は、北海道へき地・複式教育研究連盟とも連携を図り、へき地複式教育の発展に寄与していきたいと思います。

最後になりましたが、研究集録を発刊するにあたり研究大会当日にご助言いただいた、北海道教育大学旭川校教授 谷地元直樹様、宗谷教育局義務教育班主査 中山智洋様、同主事 武田くるみ様、稚内市立大岬小学校教頭 中村繁仁様、同稚内東小学校教頭 平岡昌樹様に心よりお礼申し上げます。